名古屋のまちが、2027 年のＪＲ東海・リニア開業を見据え、大きく変貌をしようとしています。

本号では、最近活発な動きをみせる名古屋市のまちづくりの一角をお伝えします。「広い道」と「自動車のまち」のイメージが強かった名古屋ですが、2027 年に向け、その姿は大きく変わろうとしています。

(1) 名古屋駅周辺まちづくり構想懇談会

名古屋では、平成 26 年のリニア中央新幹線の着工を目指して、現在、環境影響評価手続が進められています。名古屋駅周辺地区においては、リニア中央新幹線開業を見据えて、名古屋鉄道の駅を含めた再開発構想など、新たなまちの動きも出てきています。

こうした中、今後の名古屋駅周辺地区のまちづくりを推進するための基本的な方針となる「名古屋駅周辺まちづくり構想」を策定するため、名古屋市では、構想の策定に向け外部識者等を委員とする「名古屋駅周辺まちづくり構想懇談会」を設置し、平成 24 年 11 月 12 日に、第１回懇談会を開催しました。

この会議では、リニア開業を見据えた、名古屋駅の駅機能だけでなく、駅周辺のまちづくりにおいても「スーパーターミナル」としての風格のある街並み形成を目指すべきことなどが議論されたようです。

今後も当懇談会での議論を重ね、新しい「名駅地区（めいえき）」のまちの姿が描かれるとともに、15 年後の実現が大いに期待されます。

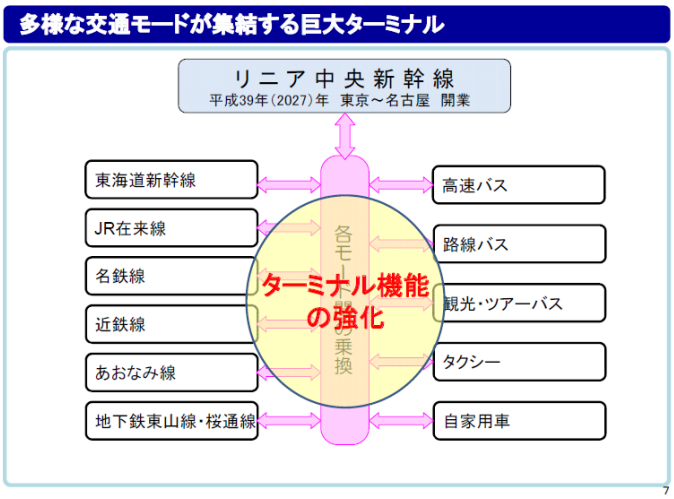

図　名駅地区の位置づけ

（出典：名古屋市のＨＰに掲載されている第１回資料より）

(2) なごや新交通戦略推移プランと「みちまちづくり」

“自動車のまち”の色合いの強いイメージがありますが、交通まちづくりにおいても、新たな動きがあります。

より一層の自動車利用の適正化を図り、徒歩、自転車、公共交通を中心とした交通体系をめざした「なごや新交通戦略」が、平成 22 年 12 月に名古屋市交通問題調査会から答申されたことを踏まえ、名古屋市は将来に向けた交通施策を推進していくための指針となる「なごや新交通戦略推進プラン」を策定しました（2011 年 9 月）。

そして、そのプランのリーディングプロジェクトとして、「みちまちづくり」という、聞き慣れない、新しいコンセプトが発案されています。「道路が変われば、まちが変わる」との思想のもと、従来の“自動車中心の道路空間”から、“人が中心の空間”への再構築を目指しています。現在は、このプランの具体化に向けた取り組みを検討しています。

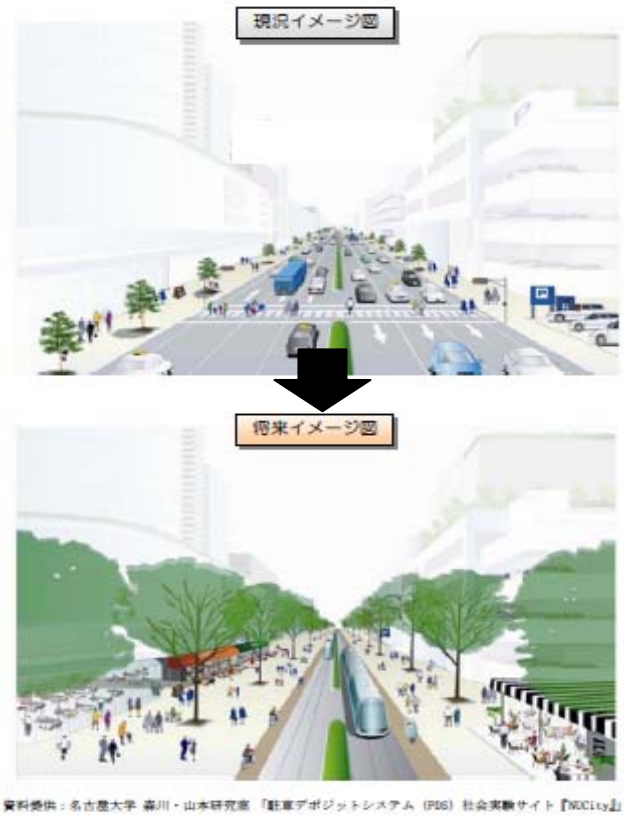

図　みちまちづくりのイメージ

（出典：名古屋市ＨＰより）

このほかにも、久屋大通公園の再整備計画など、2027 年に向け名古屋のまちは大きく変わろうとしています。

（文責：安藤　章 ／ ㈱日建設計総合研究所）